

日本の未来を見据えて撃つ！  
そんなあなたにホットな話題をお送りする  
最先端オピニオン紙

# 日本シティジャーナル

発行: ネットハウス  
〒286-0825 千葉県成田市新泉 14-3  
TEL 0476-89-2333 FAX 0476-89-2334  
[平日] 10:00~19:00 [土曜] 12:00~17:00  
<http://www.nihoncity.com>  
成田市、佐倉市、印西市、富里市、香取市、山武市、船橋市、千葉市(花見川区、美浜区)、習志野市、八千代市、四街道市、酒々井町、栄町、小林、安良、多古町、横芝光町、芝山町、神崎町  
発行部数: 500,000部

## 元伊勢と三輪山のレイライン Vol. XII 神宝の秘蔵場所を示唆する元伊勢の暗号メッセージとは

### 元伊勢の御巡幸に携えられた神宝とは

三輪山より始まった元伊勢の御巡幸という特異な歴史の背景には、崇神朝時代の国内外の政情不安と動乱の噂だけでなく、悪疫の流行がありました。時に神威を畏れた天皇は、宮中にて代々祀られてきた神宝を、笠縫邑に遷すことを決断したのです。その際、本物の神宝に代わる鏡や剣が新たに鑄造され、それらレプリカは護身用として、宮中で祀られるようになり、レプリカが造られた目的は、単に本物と置き換えて祀るためだけでなく、複数の類似した神宝を混在させることにより、本物の宝蔵場所がどこにあるか分からないようにして、盗難の危険から守ることであったと考えられます。こうして世紀のイベントへの道筋が整えられ、神宝と運命を共にする元伊勢の御巡幸が決行され、最終的に神宝は、伊勢の五十鈴宮に鎮座することになったとされています。

元伊勢の御巡幸で遷座された神宝とは何でしょうか。「日本書紀」、「古事記」や「倭姫命世記」(世記)には、天照大神としても知られる八咫鏡についての記述は見られないことから、その対象となる神宝は八咫鏡であると、一般的に考えられています。実際には八咫鏡だけでなく、スサノオ命が大蛇の尾より発見したと伝えられる草薙剣も宮中より同時に遷されていたことが、「古語拾遺」に記されています。草薙剣はその後、伊勢にて倭姫命から日本武尊に授けられたことからして、歴史の辻褄は合います。つまり、豊鋤入姫命から始まる御巡幸史の原点には、少なくとも八

咫鏡と草薙剣という2種の神宝が存在したことになります。

また、それらの神宝に加えて、新たに鑄造されたレプリカも一緒に運ばれたのではないのでしょうか。外敵から神宝を守るための秘策として、本物と区別のつかないレプリカの存在が注目された可能性があります。結果として、元伊勢御巡幸の際には、多くの神宝が携えられたと考えられます。国家が幾つもの艱難に直面していただけに、神秘的な力の象徴となる神宝を堅持することは最重要課題であり、その行く末が、とかく注目される時代の幕開けでした。

### 歴史のペールに包まれた神宝の行方

ところが御巡幸の旅路の最中に、それらの神宝がどのように運ばれ、いつ、誰が、どこに宝蔵したかというような、神宝の取り扱いに関する記述がどこにも見当たらないのです。草薙剣に関しては、天孫降臨の際に、八咫の勾玉や鏡と共に瓊瓊杵尊に授けられた話から、倭姫命が日本武尊にお渡しになるまでの情報が、「記紀」では空白であり、神武天皇の即位に関する記述にも言及されていません。また、「古語拾遺」においても前述した内容以外は参考となる記述が見当たらないのです。「世記」でも三種の神器については天照大神と称される八咫鏡に関する記述が散見される程度です。

「世記」によると、五十鈴宮が建立されて元伊勢の御巡幸が完了した頃と時期を同じくして、新しく神宝が造られたことがわかります。そこには採女忍比売(うねめのおしひめ)は天平登(ひらか)80枚を、天富命孫(あめのとみ

のみことのみこ)は神宝鏡、大刀(おほとし)、小刀(をとし)、矛楯、弓箭、木綿(ゆふ)などを造り、神宝と大幣(おおみてくら)を備えた」と記されています。また、饗を奉る場所には、伊弉諾命と伊弉冉命が奉げた白銅鏡二面と日月神の化れる鏡が置かれ、水火二神の霊物として崇められたことも記録に残されています。「古語拾遺」も含め、これら史書の記述から理解できることは、およそ1世紀を経た御巡幸の初めと終わりの時期には、レプリカの鏡や剣を含め、多くの神宝が鑄造されたということです。ところが、新たに鑄造された神宝については詳細が記録されていても、御巡幸において遷座された神宝についての情報がほとんど存在しないのは何故でしょうか。元伊勢の御巡幸とは、神宝を守り、天照大神の鎮座地を探し求めるための長旅であっただけに、その取り扱いに関する記述が御巡幸の最終段になって史書に含まれていないことに、何か不自然さを感じないではいられません。

更に不思議なことは、天照大神の御鎮座地である五十鈴宮に到達した後も、倭姫命は御巡幸の旅を続けられ、供え物となる御饗を定めるための田を探しながら、志摩の伊雑宮へと向かったことです。御巡幸地の中でも最南端の地であり、しかも最後に訪ねられた伊雑宮については「世記」に詳細が記されていることから、伊雑宮が何かしら特別視されていたことがわかります。前述したとおり、伊雑宮が建立された場所は、多くのレイラインが交差する中心地として極めて重要な位置付けにあり、地域の歴史は

大変古いことがわかります。伊雑宮が建立される以前から伊雑ノ浦の沿岸では港と古代集落が発展し、その歴史は伊耶那岐命の時代まで遡る可能性さえ否定できません。そしていつしか、国内の聖地を結ぶ基点として認知された伊雑宮は、五十鈴宮の創始にあたり、その元宮、遙宮として紐付けられたのでしょう。

その後、倭姫命は伊勢まで戻られ、御巡幸の歴史は締め括られます。五十鈴宮は神宝の鎮座地として極めて重要ではあるものの、元伊勢御巡幸の全体像からすれば、伊雑宮への通過点として考えられていたのかもしれませんが。元伊勢の御巡幸における海上交通の原動力となった船木氏を中心とする海人豪族は、一族の拠点となっていた美濃国の本巣郡を離れ、伊勢国へと倭姫命御一行を海上で護衛しました。その際、伊勢国の渡会では船木氏の集落が設けられています。そして倭姫命らと共に志摩国の伊雑宮へ向かった後、少なくとも船団の一部は熊野灘を紀伊半島に沿って南西方向に航海を続け、紀伊大島から淡路島へと北上したようです。そして最終的には播磨国周辺に船木氏の拠点が広がっていくこととなります。この船木氏の動向を検証することにより、神宝の行方に絡む最終的な結末が見えてきます。

古代国家の統治を担うリーダーにとって、建国の歴史に結び付く神々を篤く信仰し、天皇家の象徴でもある神宝を守護することは、国家が繁栄するための最重要課題でした。そして神宝を携えながら元伊勢を御巡幸するという一見、危険な秘策を実現し、歴史を大きく動かすためには、それなりの周到な準備が不可欠だったのです。特に神宝を外敵から確実に守る手段については、事前に十分な検討がなされたことでしょう。その結果、神宝の取り扱いについての言及は避けられ、史書に記されることなく、歴史のペールに包まれる結果になったと推測されます。

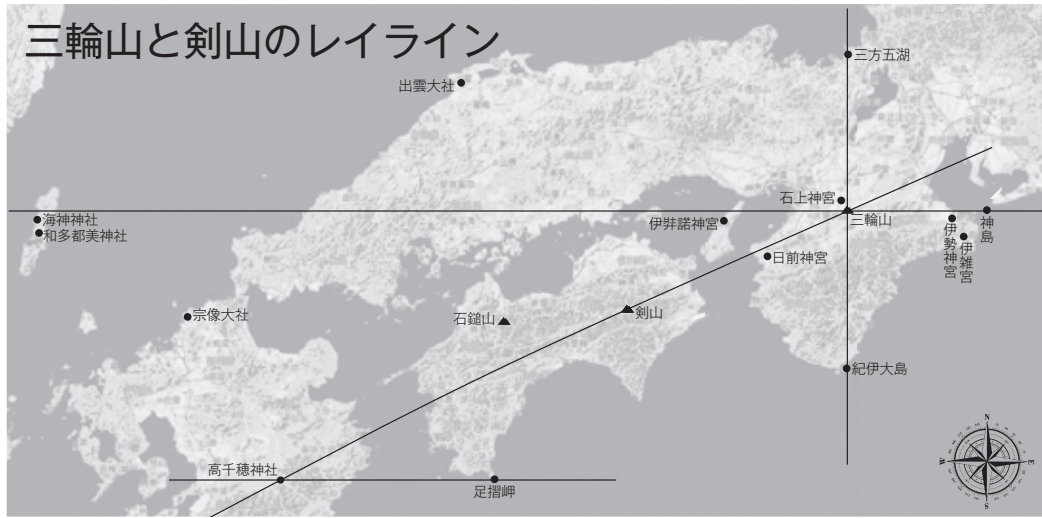
### 神宝の安置を脅かす倭国内乱

元伊勢の御巡幸という歴史的イベントが始まる崇神天皇即位6年、前1世紀のはじめ、大陸では漢時代の栄華を極めた武帝による統治が崩壊し、各地で反乱や盗賊の横行が発生して民衆は困窮を極めていました。一方、日本国内においても当時、不穏な空気が立ち始め、歴史が大きく変

わろうとしていました。前206年に秦王朝が崩壊した直後から、大陸より朝鮮半島を経由して日本に渡来する民が徐々に増加し、国内各地で様々な衝突が生じ始めていたのです。そして朝廷に敵対する勢力も各地で台頭し始め、政治情勢が不安定になってきました。さらに大陸からの渡来者の数は何万、何十万という膨大な数に膨れ上がり、中には大陸系の豪族も存在したことから、いつしか朝廷の統治が及ばない地域勢力が、列島各地に散在するようになったのです。実際、元伊勢御巡幸の直後から国内の動乱は激しさを増し、特に東方の反乱は際立っていました。そのため、日本武尊は2世紀初頭、東方の征伐に向かい、命を落とすこととなります。

倭国にて長期間にわたり騒乱が起きたことは、三国志を含む複数の中国史書に記されています。それらの記述によると、倭国は元来、男王により治められていたが、ちょうど日本武尊が死去した頃と同時期の2世紀初頭から70~80年間という長期間にわたり騒乱が起き、その後、邪馬台国と呼ばれる国家が台頭し、女王が君臨して国中が服することになります。そして邪馬台国と狗奴国との戦いが生じ、卑弥呼が死去する248年頃まで、女王の治世は続きました。「後漢書」や「隋書」には、邪馬台国の成立時期は桓帝と靈帝の治世の間と記載され、それは146年から189年頃であることから、元伊勢の御巡幸後の時代と一致します。「梁書」や「北史」でも同様に、後漢の靈帝の治世、光和年間において倭国が乱れ、その後、卑弥呼という女王が君臨することによって混乱が収まり、邪馬台国が勢力を増し加えたことが記されています。つまり、元伊勢の御巡幸が終わった直後の2世紀初頭から、倭国の大乱が始まり、国内が大混乱に陥る最中、邪馬台国が息吹いたのです。そして2世紀後半に邪馬台国は、遂に統治国家として台頭するまでに至りました。

そのような時代の激変を、元伊勢の御巡幸が始まる前から古代の識者らは察知したのではないのでしょうか。そして治安が徐々に悪化する最中、天皇家の象徴である神宝が、標高467mしかない、およそ無防備な倭国の三輪山に安置されていることが危惧されたのです。それ故、国内の動乱が悪化する前に、大切な神宝を外敵による略奪から守護するこ



とが急務となり、その秘蔵場所が密かに協議されたと思定されます。内乱は長期化する可能性もあったことから、後世の人々でも理解し、探しあてることができる秘策が検討されたのです。

### レイラインを用いた神宝隠蔽の秘策

天照大神と言われる八咫鏡は五十鈴宮、今日の伊勢神宮に祀られています。果たしてそれが本物の神宝であるかどうか、見分けることは困難です。例え伊勢神宮の八咫鏡を手に入れることができたとしても、それを比較検討する手段がないのが実情です。いずれにしてもレプリカが存在したことは史書の記述から明らかであり、本物の神宝は、レプリカとすり替えられた可能性があります。

例えばエジプトのピラミッドにおいては、王のミイラを略奪の危険から保護するため、実際の埋葬室を別の場所に設けて、ミイラの場所を隠蔽した事例があることは周知の事実です。その場所はピラミッド内の王の間とはかけ離れた場所に存在し、古代人の知恵を振り絞って考え抜かれた奇想天外な隠蔽策の結果と考えられています。同様に、天皇家の神宝も人目に触れぬうちに、いつしかレプリカとすり替えられ、本物は全く別の場所に隠蔽されたとは考えられないでしょうか。暴徒の襲撃や略奪から長期にわたり神宝を守護するためには、ピラミッドの埋葬室隠蔽に匹敵する秘策が不可欠だったのです。

五十鈴宮は地理的に見ると、

外敵の侵略から無防備な土地であることがわかります。特に国内情勢が不安定な時期、朝廷の防衛力が十分に及ばない地域において、新しく造営する宮の境内に大切な神宝を祀るということには、相当な危険が伴ったはずで、そのようなリスクを背負ってまで、伊勢の聖地に神宝を祀ったとは考えづらいのです。それ故、元伊勢を御巡幸される途中で、本物の神宝がレプリカとすり替えられた可能性が現実性を帯びてきます。もし、そうだとするならば、本物の神宝が秘蔵された場所が、別に存在し、そのメッセージを後世に伝えるために計画されたのが、元伊勢の御巡幸であったという見方が浮上してきます。

元伊勢の御巡幸とは、本物の神宝の行方を後世に伝えるべく、暗号のごとく綿密に仕組んだ計画であり、歴史に類を見ない壮大なスケールの皇族の旅であったとは考えられないでしょうか。しかしながら時代を超えてまで、神宝の秘蔵場所を後世に暗号メッセージとして伝えることなどできるのでしょうか。その手法として用いられたのが、元伊勢御巡幸地を、中心となる指標に結び付けたレイラインの構想です。列島内に広がる様々な地の指標と、神宝の秘蔵場所とを結びレイライン上に、全ての御巡幸地を見出し、それらのレイラインが交差する地点が神宝の安置場所として理解できるように仕組んだのです。その結果が元伊勢の御巡幸と考えられます。そしてレ

イラインの交差点には、四国の剣山が聳え立っているのです。

### 剣山と結び付く三輪山の不思議

四国の剣山が三輪山とレイライン上にて結び付く霊峰であることは、三輪山のレイラインを検証することにより明らかになります。元伊勢の基点となる三輪山と、天孫降臨の地、高千穂の中心地である高千穂神社を地図上で結ぶと、その直線上に剣山の頂上がびたりと位置しています。剣山は大自然の指標であり、大物主大神の介入による三輪山の霊峰化は、瓊瓊杵尊による高千穂への天孫降臨より先立ちます。よって剣山と三輪山を指標として用い、これらの2つの霊峰を結ぶレイラインと四国足摺岬の緯度線が交差する地点を特定することにより、天孫降臨する高千穂の聖地をピンポイントで見出すことができたかと推察できます。三輪山のレイラインの検証から、古代より剣山が三輪山や高千穂と共に天孫降臨に結び付けられた重要な霊峰として認識されていたことがわかります。

三輪山のレイラインに関する聖地や地の指標には、「3」という数字が頻繁に登場することも注目し直します。古代では「3」という数字が神への信仰に関連して用いられることが多く、三輪山がその発端であったかもしれません。三輪山とレイライン上で結び付いている日向国の高千穂においても、天照大神の孫にあたる瓊瓊杵尊が、三種の神器を

携えて高天原から天下っています。さらに三輪山から真北へ向かい日本海に到達すると、その周辺に広がる5つの湖は「三方五湖」と呼ばれ、ここでも「3」がキーワードになっているのです。

「三輪」の語源については、古事記に三輪山伝説が記されている程度の史料しかありません。そこには男性の素性を知らずに身ごもった乙女が、麻糸を男の着物に刺して翌朝に出てみると三輪山の神の社に辿り着き、麻糸が3巻残ったことから「三輪」と呼ぶようになったと記されています。その後、「三輪」は神(みわ)とも表記されるようになり、神の代名詞にもなりました。大神神社の「大神」を「おおみわ」と読むようになったのも、大神神社が三輪山をご神体としているからに他なりません。そしていつしか「三」は聖なる神に関連する数字とみなされるようになりました。



檜原神社の三ツ鳥居

三輪山では禁足地の中に、明神型の鳥居を横一列に組み合わせた形の3連の鳥居が、大神神社の拝殿と、その御神体である三輪山の禁足地を分ける場所に立てられています。三ツ鳥居とも呼ばれるこの鳥居の年代や由来については不明であり、「古来一社の神秘なり」と伝えられていま

す。また、大神神社の摂社であり、元伊勢の御巡幸地のひとつである檜原神社にも同様の鳥居が存在します。この三ツ鳥居に関連すると考えられる三角形の鳥居が、三輪山からほぼ同緯度の西方、600kmほど離れた対馬にもあります。島の中央付近、対馬の西海岸沿いには、伊弉諾神宮や伊勢神宮に紐付けられた海人神社が建立され、その元宮である和多都美神社には、3つの鳥居が組み合わさって三角形を成す三角鳥居が建っているのです。



和多都美神社の三柱鳥居

この和多津美神社は、対馬の海に面しているが実は、山の神とも絡み、剣山にも紐付けられています。天孫降臨の直後、瓊瓊杵尊の子である火遠理命(ほおりのみこと)、別名山幸彦は、兄の釣針を無くし、綿津見神の宮(和多津美神社)へと導かれました。そこで山の神、大山津見神の娘である豊玉姫と結婚し、三柱となる3人の子供に恵まれ、3年の月日が流れるのです。山幸彦の孫が神武天皇となることから、この史話は極めて重要な意味を持っています。豊玉姫の父である大山津見神は、御巡幸地である吉佐宮、今日の籠神社・真名井神社と剣山を結びレイライン上の四国石立山頂にて祀られているのです。それ

## 剣山と絡む元伊勢のレイライン



は、剣山が古代から、元伊勢の御巡幸地だけでなく、天孫降臨に纏わる高千穂と綿津美神の宮とも紐付けられていたことの証ではないでしょうか。

三輪山から始まった元伊勢の御巡幸の原点には、聖なる「3」という数字に纏わる指標が多く存在し、それらを用いて剣山と高千穂を結ぶ三輪山のレイラインが考察されただけでなく、御巡幸地もレイライン上において、剣山と結び付けられながら見出されたと考えられます。その結果、地理的には元伊勢御巡幸の中心が三輪山であるように見えても、レイライン上の本質を探ると、意外にも倭国から遠く離れた四国の剣山が、元伊勢御巡幸の基点となっていたという実態が浮かび上がってくるのです。こうして、大切な神宝はいつしか伊勢から四国の沿岸へと運ばれ、略奪者の手が届くことのない四国の霊峰、剣山の山頂周辺へ遷されたと考えられます。



剣山の山頂にある注連縄（しめなわ）

### 剣山と元伊勢を結ぶレイライン

神宝の保護という重大なミッションを達成するために練られた壮大なプランが元伊勢の御巡幸でした。1世紀近くの長い年月をかけて、各地を転々とする御巡幸の真相は多くの謎に包まれています。御巡幸に関する数少ない貴重な史料である「倭姫命世記」を偽書として一蹴する説も根強く、史実として捉える向きは、これまでごく少数派に限られていました。しかしながら御巡幸地が剣山とレイライン上で結び付いていることに着目し、ほとんどの御巡幸地が剣山を基点としてピンポイントで見出された可能性が高いことに着目するならば、一見謎めいた「世記」の記述が、意外にも信憑性を帯びて蘇ってくるのです。

元伊勢御巡幸の最初に向かった倭国笠縫邑は三輪山の麓にあり、その比定地の筆頭が大神神社の摂社として名高い檜原神社です。三輪山の麓ということで、必然的に三輪山と高千穂神社という、いずれも天孫降臨の時代を代表する聖地を結ぶレイライン上に、檜

原神社は位置することになります。

次に元伊勢の中でも著名な籠神社と、その元宮として知られる真名井神社の古代名称と考えられる吉佐宮のレイラインを検証してみましよう。吉佐宮は、後述する奈久佐浜宮(日前神宮)と同じ経度に並ぶことから、そこを通して剣山に結び付いていることがわかります。さらに吉佐宮と剣山を結ぶ線上には、石立山と高越山が剣山の南北に並んでいます。標高1707mの石立山頂からは剣山と土佐湾を一望することができます。山頂の祠は石立神社と呼ばれ、伊弉諾命と伊弉冉命の子である大山津見神が、山の神として祀られています。前述したとおり、大山津見神の娘は瓊瓊杵尊に娶られた木花開耶姫(このはなさくやびめ)であり、神武天皇の祖父にあたる山幸彦を生んでいます。つまり大山津見神が祀られた石立山は、天孫降臨に直結する霊峰として剣山とも紐付けられていたのです。また、剣山の頂上の北北東20kmほどに、標高1133m、阿波富士とも呼ばれる高越山があります。山頂からは剣山や三嶺、淡路島、瀬戸内を一望することができ、山頂近くの寺では空海が修行を重ねたことで知られています。高越山頂も剣山と吉佐宮を結ぶ線上に並ぶことから、古代より重要視されたことでしょうか。

紀伊国にある奈久佐浜宮も、剣山を基点として見出された巡幸地です。2つの比定地があり、日前神宮は剣山と富士山を、そして濱宮は剣山と齋宮を結ぶレイラインの中間に位置していることから、どちらも剣山の存在が重要視されていたことがわかります。次の御巡幸地が吉備国の名方浜宮です。今日、伊勢神社として知られる御巡幸地も、剣山の存在なくしては、その場所をピンポイントで見出すことができなかつたことでしょうか。何故なら、伊勢神社は四国の室戸岬と剣山を結ぶ線上にピタリと位置するからです。そして倭国に再び戻り、豊鋤入姫命による最後の御巡幸地となる御室嶺上宮へ向かいます。その比定地は三輪山、もしくは山頂近くにあり大神神社の摂社、高宮神社であり、笠縫邑と同様に剣山と高千穂神社に結び付く場所です。

時代が変わり、豊鋤入姫命から倭姫命へと御巡幸の責務が引き継がれます。まず御一行は、

宇多秋宮へ向かわれました。その比定地となる阿紀神社は、香取神宮と富士山、そして剣山を結ぶ線上に見出されています。倭国内にあるもう一つの御巡幸地が、今日では篠畑神社として知られている佐々波多宮です。その場所は、剣山と天香久山を結ぶ線上に位置しています。どちらの御巡幸地も剣山に紐付けられていたことがわかります。

伊賀国は、今日では三重県にまたがり、そこには3つの御巡幸地が存在しました。まず、市守宮は名張にある蛭子神社が、その比定地として知られ、剣山と三輪山を結ぶ線上に建立されています。次に穴穂宮があり、その比定地として伊賀市の神戸神社が筆頭に挙げられています。神戸神社の場所は、剣山と淡路島の南東に浮かぶ沼島の最南端を結ぶレイライン上にあります。沼島には上立神岩もその東岸沿いにあり、古代より聖地として認識されていた可能性があります。そして柘植には、都美恵神社として知られる敢都美恵宮が存在し、剣山と熱田神宮を結ぶレイライン上に建立されています。熱田神宮の場所では、神宮が建立される以前より祭祀活動が行われ、敢都美恵宮の建立時期をはるかに遡る可能性があることから、剣山と熱田神宮を結ぶレイラインにより、敢都美恵宮の場所が特定されたと考えても不思議ではありません。

御巡幸で訪れた次の地域は近江国でした。比定地が最も多く、定説がないと言われる甲賀日雲宮ですが、若宮神社と垂水頓宮跡、いずれも剣山と御在所岳を結ぶ線上に並ぶことから、この2社が比定地候補の筆頭と言えます。若宮神社のレイラインは伊雑宮と六甲山、出雲大社の御神体とも言われる八雲山を結ぶだけでなく、宗像大社中津宮と富士山を結ぶレイライン上にも位置するという、この上ない地の利を得ています。一方、垂水頓宮跡は、諏訪大社比津宮と六甲山、富士山を結ぶレイライン、そして足摺岬と諏訪大社下宮を結ぶレイラインの2本が交差する地点に建立されています。どちらも元伊勢として可能性がある聖地ですが、より古い世代の指標は、よりシンプルである、という原則からすると、垂水頓宮跡に分がありそうです。いずれにしても、若宮神社、垂水頓宮跡のどちらも剣山と御在所岳を

結ぶ線上に位置することから重要な聖地です。さらに琵琶湖の沿岸、北東方向に位置する坂田宮は、古代の日向(宮崎)と剣山を結ぶレイライン上に位置していることにも注視する必要があります。

今日の岐阜県界隈に存在した美濃国では、伊久良河宮が御巡幸地となりました。その比定地候補としては、富士山と八雲山のレイライン上にある天神神社がありますが、剣山と結び付くレイラインを有する御巡幸地の候補としては、宇波刀神社と名木林神社が挙げられます。この2社はどちらも安八郡にあり、長良川沿いに1.7km少々、南北に離れています。長良川の氾濫が過去、何度も繰り返して多くの被害を受けていることから、元の鎮座地は不明とされています。宇波刀神社は船木山と同経度の南北に並び、名木林神社は剣山と諏訪大社下宮を結ぶ線上に並び、御祭神はどちらも天照大御神と豊受大神であることから、元来は同一の社であったのかもしれませんが。

美濃国の次に訪れた尾張国の御巡幸地は中嶋宮であり、その比定地は酒見神社が有力視されています。酒見神社は剣山と守屋山、及びその麓にある諏訪大社前宮を結ぶレイライン上に位置し、剣山と地力を共有する神社として、由緒ある歴史を誇ります。

元伊勢を巡る旅路で最後に訪れた伊勢国には多くの御巡幸地が名を連ね、そのどれもが剣山と地理的に結び付いています。桑名野代宮は今日、野志里神社として知られ、高知の虚空蔵山と剣山を結ぶ線上に位置します。奈其波志忍山宮の比定地は布気皇館太神社であり、剣山と倭国の二上山を結ぶレイラインの延長線上に建立されました。藤方片樋宮は、加良比乃神社が比定地の最有力候補であり、剣山と鹿島神宮を結ぶレイライン上に、その建立地が見出されました。飯野高宮は、今日、神山神社として知られています。そこは、剣山と奈久佐浜宮の比定地である濱宮を結ぶレイライン上にあります。また、佐佐江宮の比定地は竹佐々夫江神社であり、この神社も剣山と濱宮のレイライン上に位置しています。

磯宮として知られる伊藤宮にも注視する必要があります。磯宮と剣山を結ぶ線上には、四国100

名山のひとつであり、空海が修行された高城山、別名阿波富士が聳え立ちます。また、不思議なことに剣山の西方には高知の杖立山が、その東方には徳島の杖立山が並んでいるのです。これは偶然と言えるでしょうか。徳島の美馬郡穴吹町と木屋平との境界には、標高1049mの杖立峠が存在します。そこは綱付山と正善山を結ぶ東西の尾根と南北結ぶ峠道が交差する地点であり、その急な斜面のあまり、杖を突き立て休みながら峠を越えたことから、杖立峠という名がついたとのこと。古代の民は、吉野川の平地から穴吹の山を登り、石尾神社で神を拝してから更に杖立峠へと上り、剣山に登頂して神を祀ったことが言い伝えられています。すなわち、「杖立」という名称、そのものが剣山信仰と結び付いており、その名称を持つ東西の杖立山と剣山を結ぶレイライン上に磯宮が建立されていることには、重要な意味が秘められていた可能性があります。

その後、倭姫命御一行は、皇大神宮の別宮となる瀧原宮へと進みます。瀧原宮は御在所岳、伊吹山、三輪山等の霊峰をレイラインで結び、伊勢神宮や伊雑宮、三輪山に匹敵する極めて重要な聖地です。伊勢に到達したこともあり、この時点から剣山との結び付きにとらわれることなく、倭姫命御一行は伊勢国の矢田宮(矢田の森)、家田々上宮(神宮神田)、奈尾之根宮(宇治山田神社)を短期間で訪れ、その後、五十鈴河上へとむかいます。そして最終的に五十鈴河上にて皇太神宮、今日の伊勢神宮内宮が建立されたのです。

元伊勢の御巡幸地が特定された背景には、剣山の存在があったことは、もはや疑いの余地はありません。それぞれの御巡幸地が、地の指標と剣山を結ぶレイライン上に位置するように綿密に計画することにより、神宝の秘蔵場所がどこにあるかを、いつの時代でも理解できるようにしたのです。その場所は、人の手が簡単には届かぬ安全な山奥であり、剣山の山頂近くにあってと考えられます。これが単なる空想に終わらないことを、船木氏の動向と「太陽のレイライン」の存在から理解することができます。(文中島尚彦)

引き続き、他の元伊勢御巡幸地のレイラインについても、<http://www.history.jp.com/>で紹介しています。是非ご覧下さい。

### WEB サイト案内

日本シティジャーナルをご覧いただきありがとうございます。本紙のバックナンバーはWEBサイトにすべてご覧頂けます。連載中の歴史に関するコラムは最新情報に随時更新してスペシャルサイト「日本とユダヤのハーモニー」にまとめてあります。ご意見・ご要望等をお待ちしております、FAXやホームページからお寄せ下さい。

日本シティジャーナル：<http://www.nihoncity.com/>  
日本とユダヤのハーモニー：<http://www.history.jp.com/>



### 編集後記

安保法が成立し、大変な議論が沸き起こっています。平和は万人の願いであり、誰も戦争なんかしたくないはずがありません。そもそもの問題は、日本が敗戦国家として防衛力までそぎ落とされてしまい、米国の助けなしには周辺国家とのトラブルにも立ち打つことができなくなったこと。よって離島防衛でも米国に頼らざるをえず、平和国家の名のもと、有事の際は米国の兵士に命をはってもらおう…こんな都合のよい議論がまかりとおるのは、日本が平和に慣れすぎたからかもしれません。

NCJ 編集長 中島 尚彦  
1957年東京生まれ。14歳で米国に単身デニス留学。ウォートンビジネススクール卒業後、ロスアンゼルスにて不動産デベロッパーとして起業。ビジネス最前線で活躍する。1990年に帰国後、成田にサウンドハウスを立ち上げる。現在ハウスホールディングス代表、日本シティジャーナル編集長を兼務。趣味はアイスホッケーと読書。ここ数年は「日本とユダヤのハーモニー」の執筆に勤しむ。





# 成田の命泉 大和の湯

y a m a t o - n o - y u

### 「大和の湯」効能

腰痛、神経痛、筋肉痛、関節痛、アトピー、五十肩、うちみ、運動麻痺、関節のこわばり、肌あれ、くじき、痔症、冷え症、慢性消化器病、後回復期、切り傷、疲労回復、健康増進、やけど、風邪の予防など

## やすらぎの天然温泉 大小合わせ12種の内湯・露天風呂



## 温泉と食事を楽しむ個室露天



お食事もお楽しみいただける、限定3室の露天風呂付き個室。記念日や家族との特別なひと時に特別な時間と空間を提供します。ゆっくりとおくつろぎください。  
(1室1時間 2,800円~/ご予約も承ります)

### 御食事処 3F 和洋会食レストラン



海鮮・旬のお刺身盛り  
(ミニそばorうどん、サラダ、香物、デザート付) 2,000円

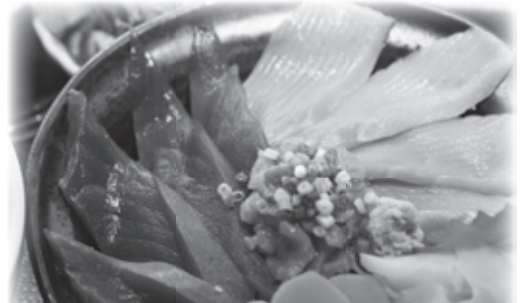
### あじ彩 AJISAI

# 旬鮮

数量限定



フリフリ自身寿司三昧 スズキ、真鯛、勘八  
(温そばorうどん、サラダ、香物、デザート付) 1,600円



上マガロの鉄火丼  
(温そばorうどん、サラダ、香物、デザート付) 1,900円



※御食事処の休業日ご案内  
9/30、10/7、8、14、21、28



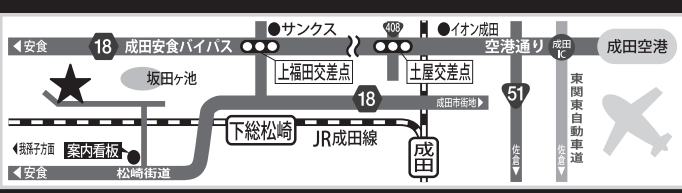
季節のにぎり  
.....(5貫)980円

## 紫苑 SHION 寿司バー

入館料 [平日] 700円 / [土日祝] 1000円  
※小学生の入館料：300円(大人同伴の入館の場合)

営業時間 10:00-22:00 未就学児の入館はご遠慮ください  
※年中無休(全館禁煙)

TEL 0476-28-8111 千葉県成田市大竹1630



### 2F 展望ロビー



【展望ロビー】

フロントを抜けると広がるロビーは、開放的で自然光が溢れる心地よい空間。展望ロビーからは田園風景や印旛沼、天気が良く、空が澄んだときは、遠く富士山や東京スカイツリーを望めます。

### 1F YAYOIスパ&フィットネス

スパ アロマ・ボディなど一流施術師のケアでリラックス  
◆ボディ ..... (30分) 3,200円~  
◆フット ..... (15分) 1,800円~  
◆アロマ ..... (30分) 4,500円~  
◆フェイシャル ..... (30分) 4,000円~  
◆フェイシャル (小顔コース) ..... (45分) 5,500円~

### カイロプラクティック —本場アメリカの技術—



カイロの本場アメリカにて修行、国内屈指の技術を誇る田中直文先生による施術です。  
《施術日》月・土・日・祝日 《施術時間》11:00~21:00

### フィットネスジム

最先端のマシンを豊富に導入  
◆ジム ..... 1,000円  
◆ジム + プール .... 2,000円

# 成田の命泉 大和の湯

y a m a t o - n o - y u

www.yamatonoyu.com